

テレビの影響力をビッグデータによって確かめよう！ テレビアーカイブを用いた視聴者の行動センシング

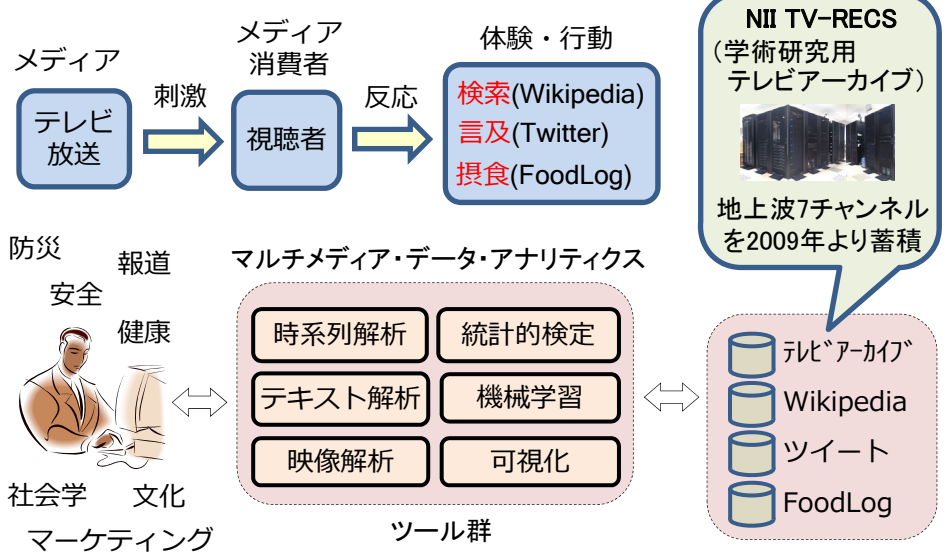


どんな研究？

テレビアーカイブやインターネットから得られる多様な情報を統合的に解析することで、視聴者の体験や行動を把握・解析する枠組みを構築しています。テレビの影響力を定量的に可視化することで、防災や福祉のための研究に応用できます。

状況設定

テレビ放送を刺激として視聴者の体験・行動に現れる変化を、テレビアーカイブ、ツイート、FoodLog など複数の情報を用いて多角的に解析できるツール（マルチメディア・データ・アナリティクス）を構築しています。テレビアーカイブとしては、2009年より地上波7チャンネルを蓄積している NII TV-RECS (学術研究用テレビアーカイブ) を用いています。

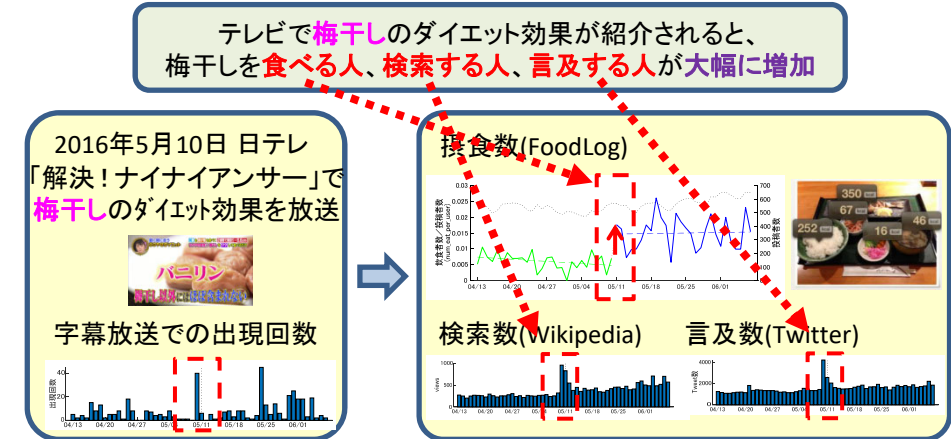


何がわかる？

インターネットの普及により若者のテレビ離れが進み、情報獲得手段としてのテレビの役割は、相対的に小さくなっています。しかし、テレビは、同報性、広域性、信頼性などの点で今でもメリットがあり、防災・防犯・保健・福祉等の情報伝達では、現在も大きな役割を担っています。そのようなテレビが社会に与える影響を、大量のデータを用いて多角的かつ定量的に解析・可視化できるようになります。

研究内容

解析事例：テレビの影響による摂食数の増加



FoodLog 5年分(1800品目)を自動解析し、摂食数が急増している日を検出。字幕放送やツイートと照合することでテレビの影響と推測されるものを抽出。

- その他の増加例
- 2016年4月27日 NHK 「ためしてガッテン」で鶏胸肉の調理法を放送
 - 2016年6月14日 テレ朝 「みんなの家庭の医学」で麦飯の効能を放送
 - 2016年12月5日 NHK 「あさイチ」で甘酒の効能を放送